

箕面市学力実態調査の結果について【小学校算数】

箕面市教育センター

箕面市においては学力実態の把握に努めるため、平成13年度より平成18年度において「箕面市学力実態調査」を実施してきた。本研究は、小学校5年生における理科の学力実態調査の結果をもとに、本市の学力の実態を分析する。

分析に際し、得点率、通過率を比較するに当たっては、大阪府学力等実態調査や全国学力・学習状況調査の分析方法と同様に、全国と上下5ポイントの幅を設定し、この幅に収まっていれば「全国と同程度と考えられるもの」、この幅を超えていれば「全国より上回っていると考えられるもの」、その幅に達していなければ「全国を下回ると考えられるもの」とした。

また、全国比については、上下10ポイントの幅において有意性があるにとらえた。

得点率・・・満点に対する得点の比率

通過率・・・ある問題に正答した人数の割合

全国比・・・全国平均を100とした場合のある集団の平均の割合

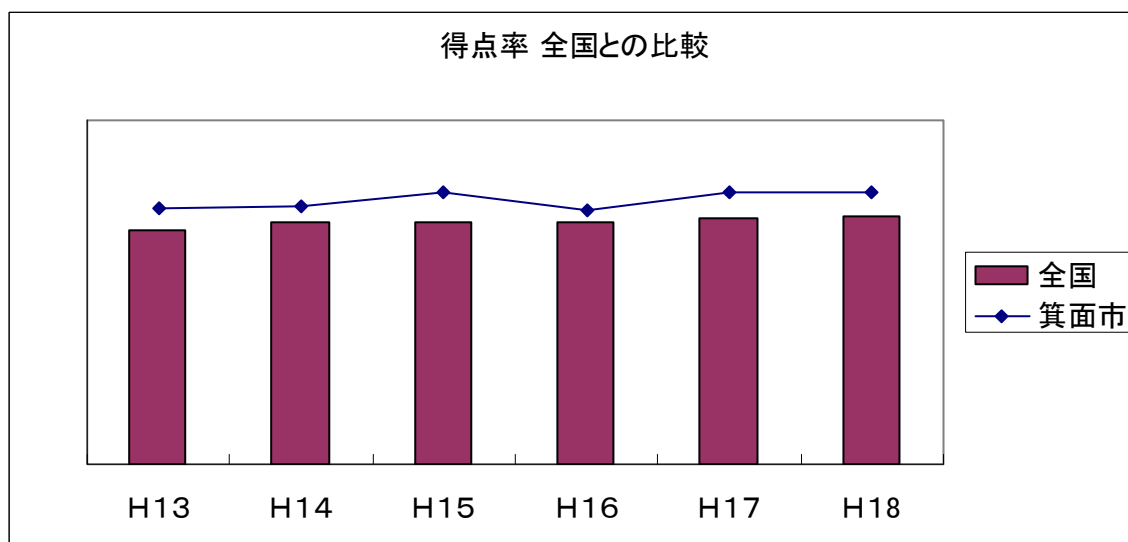
1 「平成18年度学力実態調査」の結果について

(1) 概要

- ・教科総合点においてかなり良好である。
- ・領域別では「数と計算」「数量関係」で全国比を有意に上まわっている。

2 経年変化について（平成13年度～平成18年度）について

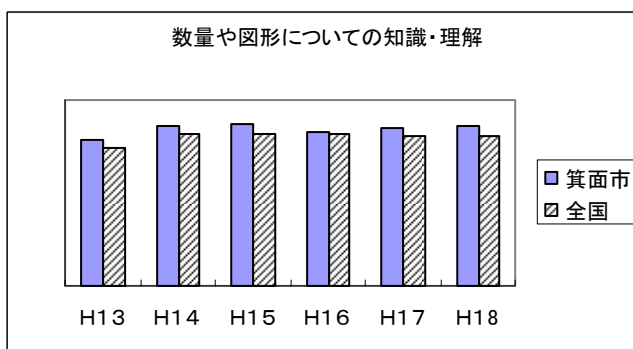
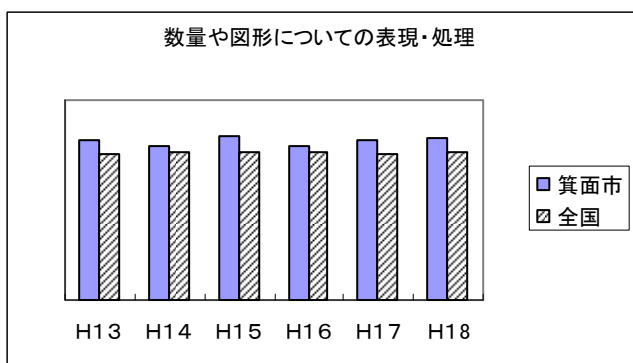
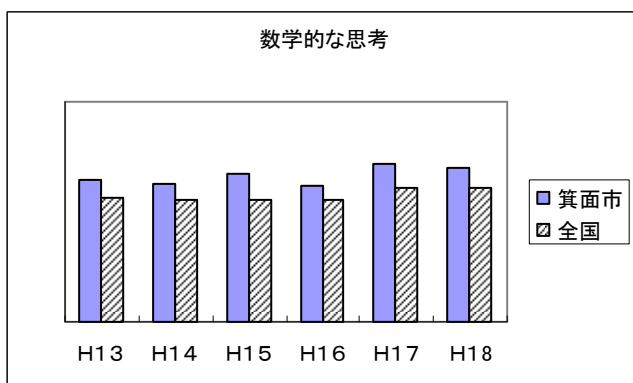
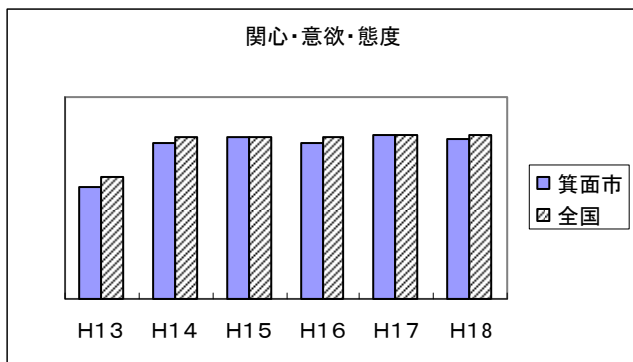
(1) 得点率比較から



全国との関係において良好である。

平成13年度より学力実態調査を実施し、平成14年度より新学習指導要領が施行された。同観点、領域等ではあるが、小領域においては変更があったので、経年比較を考え、分析対象としては平成14年度以降の結果を対象とした。

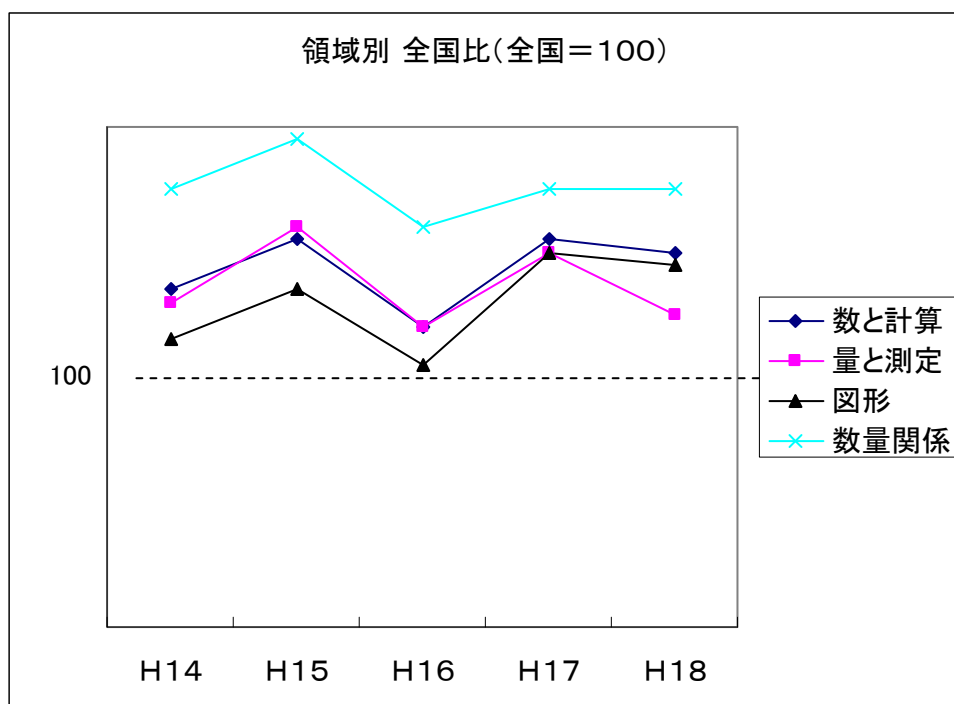
(2) 観点別得点率比較から



全国より上回っていると考えられるもの	
平成14年度	数学的な思考
	数量や図形についての表現・処理
平成15年度	数学的な思考
	数量や図形についての表現・処理
平成16年度	数学的な思考
平成17年度	数量や図形についての表現・処理
	数量や図形についての表現・処理
平成18年度	数学的な思考
	数量や図形についての表現・処理
全国をやや下回ると考えられるもの	
	該当なし

上記グラフ、表から、どの観点においても、全国を上まわると考えられる。

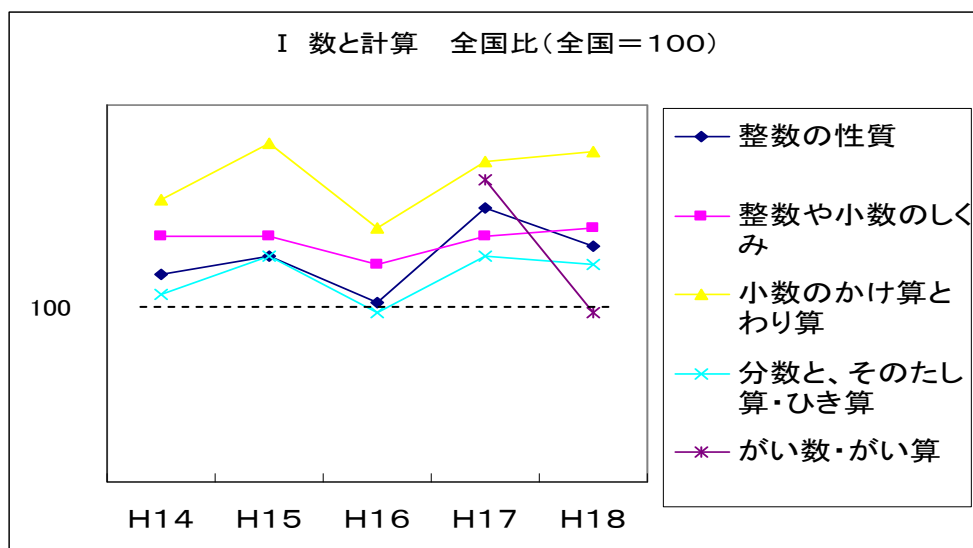
(3) 領域別全国比 比較から



どの領域に関しても、全国比を上まわり、比較において有意な差であると考えられる5ポイントを超える領域がほとんどであり、全国との関係において良好であると考えられる。特に「数量関係」領域においては、平成14年度以降一貫して12～19ポイント上まわりかなり良好である。

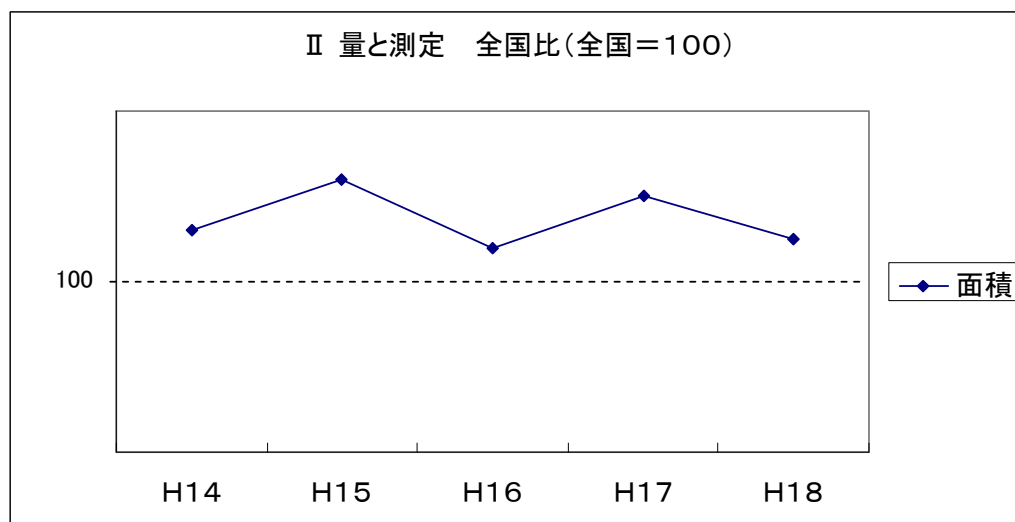
(4) 小領域別全国比 比較から

I 数と計算



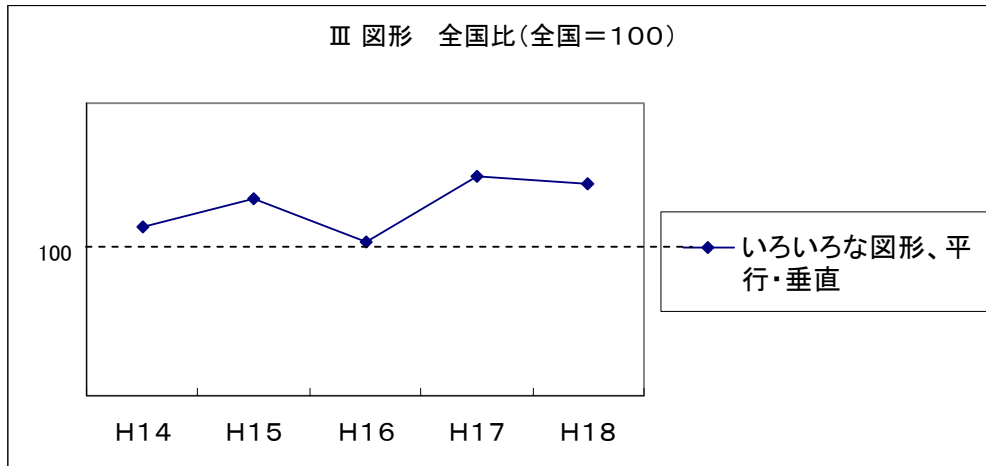
数と計算領域において各年度全般に良好である。分数と概数においては全国を下回る年度もあり、課題が見える。概数については17年度、18年度の研究の中で分析を行い、指導方法についても検討した。

II 量と測定



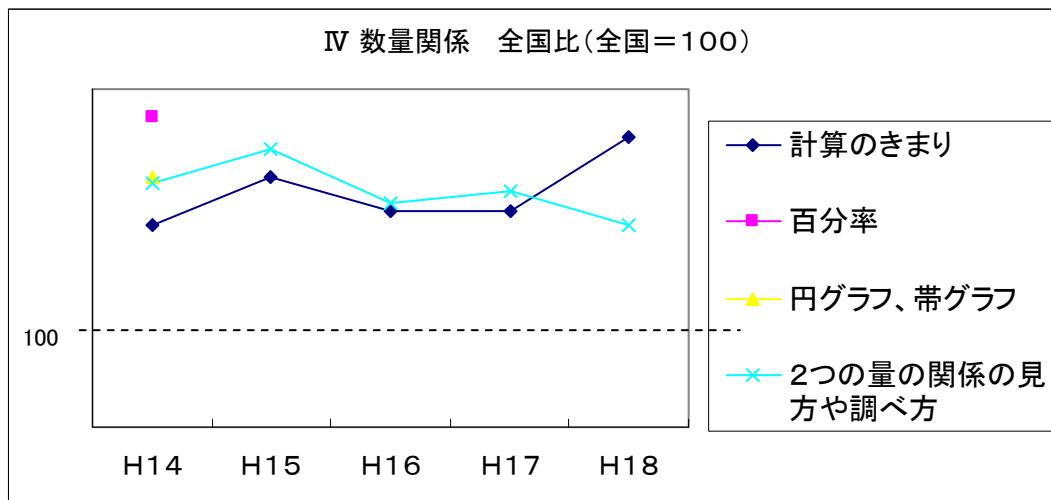
量と測定の領域も実施期間を通じて全国を上回り、良好である。しかし、面積の基礎はできているが応用に課題があった。

Ⅲ 図形



図形領域も実施期間を通じて全国を上回り、良好である。

Ⅳ 数量関係



数量関係領域は実施期間を通じて全国を大きく上回り、極めて良好である。しかしながら、2月実施ということで、百分率についてはH15年度以降問題にないため、分析できていない。大変理解の難しい単元のため検証が必要である。

5 小問内容別通過率

下表は、さらに小問内容別に通過率における「全国との比較において有意差が認められると考えられる」問題について取り出した。

小問内容別 通過率 「全国を下回ると考えられるもの」

年度	小領域	問題内容
平成14年度	分数と、そのたし算・ひき算	整数の商の分数表示

平成16年度	いろいろな図形、平行・垂直	直線の垂直、直線の平行
	分数と、そのたし算・ひき算	分数の減法
平成18年度	がい数、がい算	概数による和の見積り

6 今後に向けて

6年間、箕面市学力実態調査を実施し、学力実態調査に係る研究の研究部員を募集し箕面市の算数教育のいっそうの充実をめざし実態調査結果の分析し研究に取り組んできた。

各年度の研究については研究紀要を参照願いたい。箕面市の算数の状況は全国との比較において良好ではあるが、全国学力・学習状況調査の結果にも表れている通り、習得した知識や技能を活用する力や思考力・判断力・表現力に課題がある。新学習指導要領でもその力が求められている。今後、基礎基本を大切にしながら、教材研究の充実や開発を進めていくとともに、教育技術の向上に努め、少人数や習熟度別の指導形態など様々指導方法も研究も進めて箕面の子どもたちの力をつけていかなければならない。また、中学校の数学との段差が指摘されてきている。15歳中学校卒業時の数学の力を見据え小・中のつながりを意識した取り組みを進めていく必要がある。

■参考資料

「箕面市教育センター 研究紀要」

研究紀要 タイトル

平成14年度「九去法による検算方法の研究」(H13年度 分析結果より)

平成15年度「少人数指導による指導法の研究」
(H14年度調査の分析結果より)

平成16年度「わり算や分数単元における少人数指導の様々な形態の指導法の研究」
(H15年度調査の分析結果より)

平成17年度「PowerPointを使った提示型教材作成と授業検証」
(H16年度調査の分析結果より)

平成18年度「市教研と共同研究によるH17年度調査の分析結果の分析と検討」